

八中3年人権だよ

徳島市 八万中学校
3年生 第13号
2021年 7月 2日
編集・発行 吉成正士

前回の「八中3年人権作文発表会2021の感想」の後編です。どうぞ。

▼△▼ △▼△ ▼△▼

■今、様々な人権問題が話題になっている中で、各クラスから選ばれた6人の意見や体験の話をきくことができ、とても勉強になりました。いろんな物の見方や、自分が間違っていることに気づかされた瞬間もありました。

その中で特に印象に残った作文は、角さんの作文です。角さんのいところが、生まれてくる前にお腹の中で亡くなってしまった部分をきいて、私もかなりショックを受けてしまいました。たぶん角さんは、すぐに立ち直れないほどショックな気持ちになったんじゃないかと思いました。障がいをもっていたら、車いすを押して、ずっと大切にすると書いていて、とても優しいなと思いました。この作文を聞いて私は、障がいをもった人を障がいをもっていない人と比べることは絶対にしてはいけなと改めて思ったし、人の命はとても尊いものなんだと改めて思うことができました。

今、簡単に「死ね」などの言葉が飛び交うような社会になっていますが、私はそんな、人の人権を否定するような言葉は使わないようにしたいです。

今日の人権集会の意見交換で、いろんな人の人権との関わり方を聞くことができ、とても良かったです。私はこれからも、人の命の大切さやいじめ問題などについての人権学習に真剣に取り組んでいきたいと思ったし、人を比べたりすることは絶対にやめようと思いました。そしてこれからも、人の人権を尊重することを大切に、たくさんの人と関わっていきたくです。そのためにも、相手のことをちゃんと考えて行動したり、相手のことを否定せず受け入れられるように、人との接し方を考えていきたくです。

6組 HH

▼△▼ △▼△ ▼△▼

■この人権作文発表会で、改めて人権の大切さが分かりました。そして差別のことについても、また深く知ることができました。

今回心に残ったのは、中島さんの作文です。自分と違うから差別するというのは、すべての差別に共通していると思います。生まれた場所、からだ、性別など、自分たちと少し違うという理由で差別するのが大半だと思います。だから違うことを認め合い、お互いを尊重していきことができれば、差別やいじめも少しずつ減っていくんじゃないかと思いました。そうすれば、本当の素の自分を出せる世界になるのではないかと思いました。

もう一つは、四宮さんの、かわいそうな人を見下しているということです。初めは少し疑問に思っていたけど、よく考えてみると、確かにそうだと思います。僕は前に障がい者の人の話を聞いたことを思い出しました。障がい者の人も「かわいそう」と言われるのがつらいと言っていました。相手の気持ちになって考えてみたら、確かに自分は障がいがあるけど、こんなに楽しく暮らしているのに、それを「かわいそう」と言われると、何とも言えない虚しい気持ちになると思います。だから僕も、「かわいそう」などという言葉を使わないように意識しようと思いました。

この意見発表会はとても良い勉強になりました。自分がない新しい知識を得ることができました。 2組 KH

▼△▼ △▼△ ▼△▼

人権学習をしていると、昔のことを思い出すことがよくあります。そして、今している学習とのつながりを感じ、「自分にも人権学習につながる出来事があったんだ」と気づかされます。そのことをみんなに伝えると、同じように気づいている人は他にもいて、また発言を重ね、いつしか発言がつながっていきます。それが、何ものにも勝る教材となります。

私たち教員も注意を促すような生徒指導の話をするがありますが、それよりも、みなさんから発せられた具体的な出来事は、圧倒的な説得力をもちます。そして、みなさん自身を律します。そうすると結果的に何が起こるかという、「自分たちでより良くなっていく学年集団」となっていくのです。まだまだこれから。でもいつかそんな姿を目にすることができれば、と思ってしまう。

▼△▼ △▼△ ▼△▼

■6人の発表者の話の内容には、悩みを打ち明けた人や、その悩みを受けとめて励ましてくれる人がいて、その人がきっかけとなって考えや行動が変わった「人物」がいました。中島さんや多田さんなどが悩みを打ち明けた人は、あたたかく受け入れてくれていました。僕もそんな人になりたいと強く思いました。不安や不満などの相談したいことを何でも聞いて、その人を動かしてあげられるような、人から厚く信頼してもらえよう人になっていきたいと思いました。

今まで差別の話や起源を知ってきて、差別が始まる原因は、誰かが誤った情報を故意に流して、それが真実と思いついて差別をしてきたということが分かりました。しかし今は、情報などは昔よりも早く伝わるネットワークになっていて、差別の種類や数は昔よりも多いと思います。SNSで簡単にデマを流すことで、被差別は少なくとも差別する人は昔よりも多いのではないかと思います。デマが起こっても常に冷静になり、人から信頼を寄せてもらえるような人になりたいです。

3組 UY

▼△▼ △▼△ ▼△▼

■八中3年人権作文発表会2021を終えて、自分のありのままを人にさらけ出してもいいのかなと思いました。もし言っても、何を言われるのか分からないので怖い、恥ずかしいから、正直自分も人に言えてないことがあります。けれど作文を聞いて、自分にとって嫌なことや恥ずかしいことも受け入れてくれたり、理解してくれたりしてくれる人が、私の身のまわりにもいるのかなと思いました。だから言ってみるのもいいのかなと思いました。

また、部落の話をして今日の人権作文発表会で聞いていて、自分はまだまだだなと思いました。四宮さんが言っていたように、同情や哀れみをしてしまっていることに気がつくことができました。部落の話になると、1回は「かわいそう」などという言葉を使って、少し下に見ていたのかもしれない。そう思うと、自分はもっと深く、部落もそうだけ

ど、他の差別問題も考えていき、気持ちをよく考えなくてはならないと思いました。上辺だけでなく、深く考えなくてはならないと思いました。

人権作文発表会で、発表して発表者に気持ちを返すことはできなかったけれど、ちゃんと自分の意見が言えるようになっていきたいです。人権や差別などについて深く考えることができ、とても良かったし、人の気持ちを考えるのは本当に大切だとあらためて思いました。

▼△▼ △▼△ ▼△▼

自分のことがありのままに、スナオに打ち明けられる関係になれるといいですね。本当に周りの仲間が信じられるなら、打ち明けられるはずです。これだけ思いを受けとめ、返してくれる人たちがいるんだから。きっと大丈夫。あとは、自分の勇気だけ。信じられるかどうかです。信じてもらいたいと思うなら、まず自分から信じる。そして、かぶっている堅い殻を突き破って、自分の思いを伝えることです。もうみなさんなら、それができてもおかしくありません。

▼△▼ △▼△ ▼△▼

■今回の人権作文発表会をきいて、「自分がされて嫌なことは人にもするな」という言葉を自分もきいたことがあり、宮内さんの作文でいっそう本当の意味を理解できたと思います。

本当に今回の人権作文発表会では様々な人の意見を聞くことができ、良い時間でした。自分の中で一番良かったなと思えたのは、「相手のことを知り、人と違うところを受け入れる」という考えです。自分と人と違うということを、否定してはねのけるのではなく、理解し、よく知り、考え、受け入れるという考え方は、人権にとってとても大切なことだと自分は思います。

中学生になって差別などについて深く考える時間が増えて、たくさんを知りました。1年生の時の人権作文と比べて、やっぱりみんな考え方も変わっていて、しっかりとした思いが強くなっていると感じました。聞いて終わりではなく、この作文を聞いてどう思って、何を考えたかを自分の中で整理して、これからの行動につなげていきたいと思いました。

1組 NO

▼△▼ △▼△ ▼△▼

■今日の人権作文発表会をして、より人権のことを知れたと思います。

1番印象的だったのは四宮さんの作文で、私もよく差別や人権の学習をして、かわいそうという言葉を書いたり、思っていたりして見下しているのだと気づき、反省しようと思いました。言葉っていうのは自分たちが思っているより軽い感じで出てしまい、人を傷つけてしまうのだと感じました。

他には宮内さんが茂崎さんに突っ込まれていたことです。いい作文を書いて、自分はそんな言葉を言わないと言っていたけど、日常生活で使ってしまった。こういうことは宮内さんだけでなく、ほとんどの人が経験があり、今なお続いているのかもしれないと思うと、他人事ではなく、自分も口だけの人になっていないのか気をつけたいと思います。口だけ、書くだけの人って、案外いると思っています。私もそんなときがあるので、人権や差別の学習って、1回だけじゃダメなのだと思います。

たくさん過去の、現在差別で苦しんでいる人がいて、そういう人たちに寄り添ったり、一緒に悩んだりできる人になりたいと思いました。

5組 YS

▼△▼ △▼△ ▼△▼

私も同感です。我が身をふり返ったとき、恥ずかしながら、言ってることとしてることが違うということがあります。自分で気づけばなおせることもあるのですが、気づけないままのこともあります。そんなときに、今回のように、注意とか指摘してくれる人がいることは、本当にありがたいことです。生きていくうえでの財産です。そんなふうにして、人は変わっていきけるのだと思います。

「人は変わることができる」そう強く思わせられた2時間でした。今回の発表会で変わった人、変わろうと思えた人はたくさんいるでしょう。そういう意味で言えば、「知る」ことは本当に大事です。でも頭だけで知ったことは忘れやすいものです。ところが、ドキドキしたり、悲しんだり、腹が立ったり、悔しがったり、うれしかったり、涙したり、感動したり、感情を伴って知ったことは忘れにくいものです。だから、単なる知識だけにとどまらない、感情を伴った「知る」を大切にしてほしいなと思います。

でもせっかくの感情の高まりも、いつかは冷めてしまうもの。冷めれば、せっかくの変わろうとするチャンスも、影を潜めてしまうかもしれません。変わったと思っても、またすぐ元に戻ってしまうかもしれません。習慣や癖として身につけているのですから、当たり前前といえば当たり前です。でも、そうはあってほしくありません。一時の感情の高まりで終わってほしくありません。

それでも本気で変わろうと思うならば、「1回だけ」でなく、繰り返すことです。「あきらめたらそこで試合終了(安西先生)」です。繰り返しチャレンジし続けられるような熱いマグマを、自分の胸底に持つことです。自分を動かし続けられるようなエンジンを、自分の中に持つことです。変わろうという思いが強ければ強いほど、人は少しずつでも変わっていきけるものです。そんなふうにして、人権学習で生き方が変わった中学生を何人も見てきました。

読まなかった本を読むようになった。

人の話を聞くようになった。

自分からあいさつをするようになった

人にやさしくなった。

高校に行こうと本気で思えるようになった。

家で勉強をするようになった。

目標が持てるようになった。

大学に行こうと思った。

先生になろうと思った。

オリンピック選手をめざすようになった。

みんなと語り合う人権学習を通して、それぞれがそれぞれの生き方を掴んでいきました。

今だけでなく、発表会のときだけでなく、八中時代だけでなく、高校に行っても、大人になっても、この先ずっと人権に関心をもち、常にバージョンアップさせながら、自分を磨き続けられるみなさんであることを、切に願っています。

人がそれぞれもつ「生まれ」は、変えようがありません。でも、「生き方」は自分で変えられます。あなたは、あなた自身の人生を、全力で生きていきけるのです。一度きりしかない人生、一度きりしかないこの瞬間を、がんばろう！ともに！みんなで！